

調 査 の 概 要

1 調査の目的

この調査は、学校保健法により毎学年定期的に行われている健康診断の結果に基づき、学校における児童、生徒及び幼児の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的としている。

2 調査事項

児童、生徒及び幼児の発育状態（身長、体重及び座高）及び健康状態（疾病異常）

3 調査の範囲

小学校、中学校、高等学校及び幼稚園のうち、文部大臣があらかじめ指定する学校（以下「調査実施校」という。）

4 調査対象

（１）小学校・中学校

調査実施校に指定された学校の児童・生徒の一部

（２）高等学校

調査実施校に指定された生徒の一部

ただし、次に掲げる生徒は調査対象者から除く

（ア）全日制課程及び定時制課程に在籍する満 18 歳以上（平成 12 年 4 月 1 日現在の満年齢）の生徒

（イ）通信制課程の生徒

（３）幼稚園

調査実施校に指定された幼稚園の 5 歳児（平成 12 年 4 月 1 日現在の満年齢）の一部

5 学校種類別学校総数、生徒等総数、調査実施校数等

区 分	学校総数	幼児・児童 生徒総数	調査実 施校数	発育状態調査 対象者数	健康状態調査 対象学級数
幼 稚 園	530	67,959	35	1,416	70
小 学 校	795	297,741	60	5,694	360
中 学 校	379	169,779	40	4,723	240
高 等 学 校	186	173,118	60	2,700	180

* 学校総数及び幼児・児童・生徒総数は平成 12 年度学校基本調査結果速報（福岡県企画振興部調査統計課）による。

6 調査の期日

平成12年4月1日から6月30日までの間に実施された学校保健法による健康診断の結果に基づき調査

利用上の注意

- (1) 年齢は、平成12年4月1日現在の満年齢である。
- (2) 被患率の計算（各項目の疾病・異常該当者数 / 各項目の受検者数）× 100
小数点以下第3位を四捨五入して小数点第2位までの数値を求めた。
- (3) この結果数値は、速報であるため後日文部省から公表される確定数値と相違することがある。

調査結果の概要 (発育状態調査)

要旨

- ・小学6年女子(11歳)は身長・体重・座高の全項目で、調査開始以来最高となった。
- ・小学6年女子(11歳)は身長・体重・座高の全項目で男子を上回った。
- ・一番成長する時期(年齢間差の最大時期)は、男子では小学6年(11歳)から中学2年(13歳)、女子では小学5年(10歳)から小学6年(11歳)となっている。
- ・平成12年度の身長・体重・座高を30年前の昭和45年度(親の世代)と比べると、最も差のある年齢の身長・体重・座高は親世代の1歳上の身長・体重・座高にほぼ相当する。

(1) 身長

福岡県における男子の身長は、10歳から12歳及び16歳の各年齢で前年度の同年齢より増加した。

女子の身長は、11歳で過去最高となった。

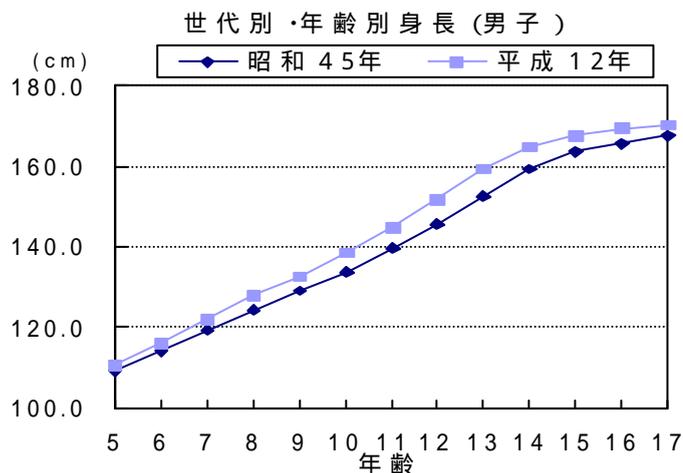
男女を比較すると、9歳から11歳の間の各年齢で、女子の身長が男子の身長を上回っている。

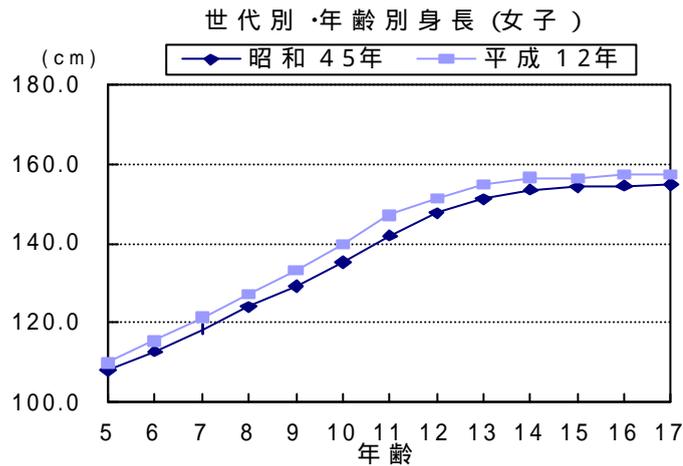
各年齢間の身長差は、男子では12歳と13歳の間(7.4cm)が最も大きく、16歳と17歳の間(0.6cm)が最も小さい。

女子では、各年齢間の身長差は10歳と11歳の間(7.3cm)が最も大きい。

平成12年度の身長を30年前の昭和45年度(親の世代)と比べると、男子で最も差のある年齢は13歳で、6.8cm親の世代より高い。この13歳の身長は、親の世代では14歳にほぼ相当する。

女子では、最も差のある年齢は11歳で、5.2cm親の世代より高い。この11歳の身長は親の世代では12歳にほぼ相当する。





(2) 体重

福岡県における男子の体重は、7歳及び12歳で、また女子の体重は、11歳及び13歳で過去最高となった。

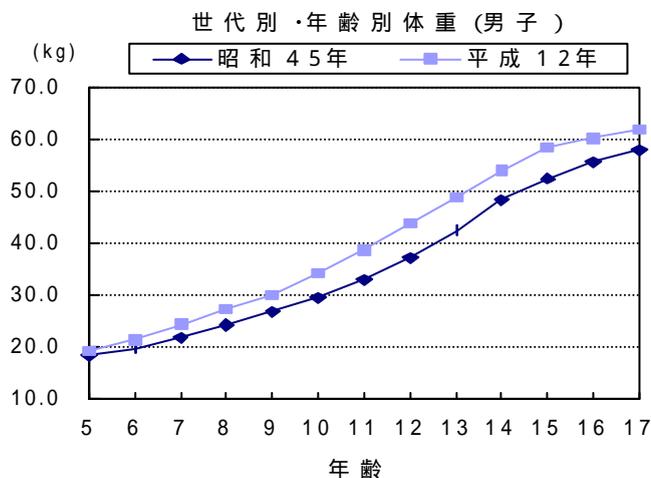
男女を比較すると、11歳及び12歳の各年齢で、女子の体重が男子の体重を上回っている。

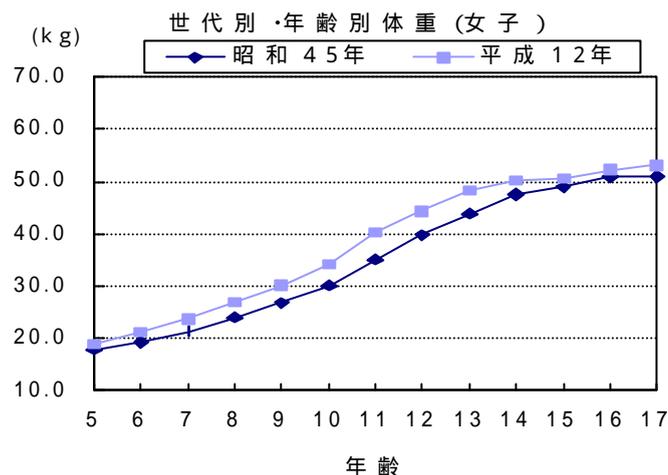
各年齢間の体重差は、男子では、11歳と12歳の間(5.2kg)が最も大きく、16歳と17歳の間(1.8kg)が最も小さい。

女子では、各年齢間の体重差は、10歳と11歳の間(6.2kg)が最も大きく、14歳と15歳の間(0.4kg)が最も小さい。

平成12年度の体重を30年前の昭和45年度(親の世代)と比べると最も差のある年齢は12歳で、親の世代より6.7kg重い。この12歳の体重は、親の世代では13歳にほぼ相当する。

女子では、最も差のある年齢は11歳で、5.3kg親の世代より重い。この11歳の体重は親の世代では12歳にほぼ相当する。





(3) 座高

福岡県における男子の座高は、8歳、9歳及び12歳から14歳の各年齢で前年度より低下した。

女子の座高は、11歳で過去最高となった。

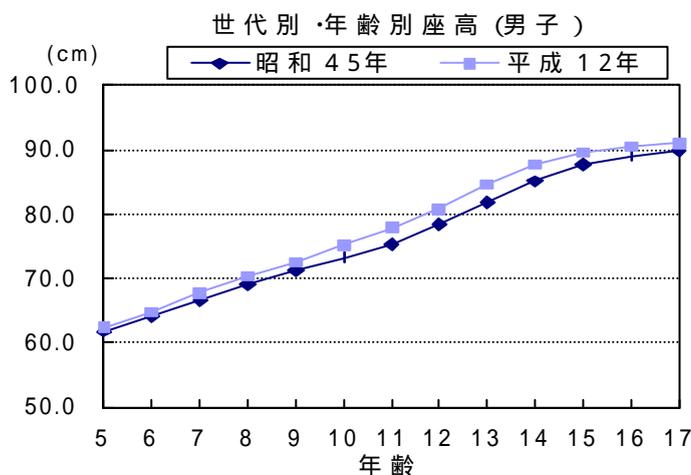
男女を比較すると、9歳から12歳の間の各年齢で、女子の座高が男子の座高を上回った。

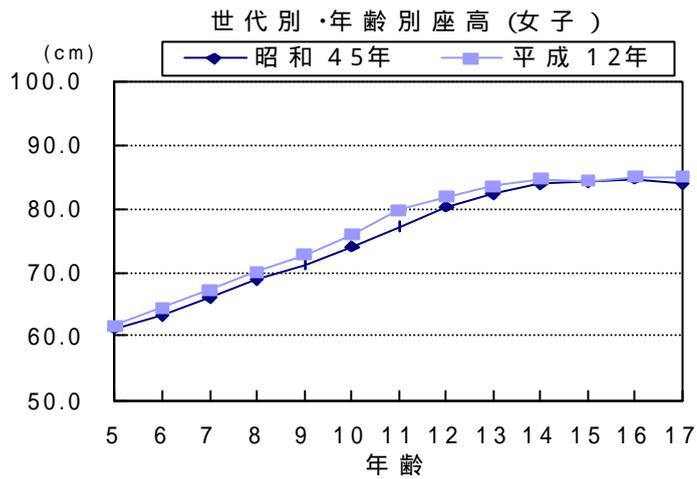
各年齢間の座高差は、男子では、12歳と13歳の間(3.8cm)が最も大きく、16歳と17歳の間(0.5cm)が最も小さい。

女子では、各年齢間の座高差は10歳と11歳の間(3.9cm)が最も大きい。

平成12年度の座高を30年前の昭和45年度(親の世代)と比べると、男子で最も差のある年齢は13歳で、2.8cm親の世代より高い。この13歳の座高は親の世代では14歳にほぼ相当する。

女子では、最も差のある年齢は11歳で2.4cm親の世代より高い。この11歳の座高は、親の世代では12歳にほぼ相当する。





足の長さ(身長から座高を引いたもの)を、30年前の昭和45年度(親の世代)と比べると、親の世代より17歳で、男子は1.5cm、女子は1.7cm長い。足の長さの身長に占める割合を親の代と比較すると、男女とも親の世代を若干上回っている。

身長に占める足の長さの割合(%)
(17歳)

区 分	男子	女子
昭和45年度	46.4	45.8
平成12年度	46.5	46.1
差	0.1	0.3